

＜エッセイ＞ 稲場愛香さんを推しつづけるということ What It Means to "Oshi" Manaka Inaba

森貴史*

Takashi Mori

^{いなばまなか}稲場愛香さんがファーストソロアルバム《Selenite》(zetima) を 2026 年 3 月 26 日に発売した。彼女がハロー！プロジェクト所属のアイドルグループ Juice=Juice を卒業した 2022 年 5 月末からすでに約 3 年 10 ヶ月が経過している。

彼女こそ、著者がもう 10 年ほど応援している元アイドルなのだ。「元アイドル」といっても、アイドル的な要素が彼女の活動からまったくなくなったわけではなく、俳優およびバラエティタレントとしても活動しているほか、アーティストでもあるのは、アルバムが発売されたという事実からも明白である。

そして、本稿の著者はかつて、この稲場愛香さんに関する著作、すなわち『〈現場〉のアイドル文化論 大学教授、ハロプロアイドルに逢いにゆく。』（関西大学出版部、2020 年）、『推しが卒業するとき 大学教授、ハロプロアイドルを〈他界〉する。』（図書出版みぎわ、2023 年）という 2 著を上梓した。

その発端はゼミ生の卒業論文である。2015 年秋学期のころ、当時ハロー！プロジェクト所属のカントリー・ガールズのプレイング・マネージャーとして活動していた^{つぐながももこ}嗣永桃子さんのアイドル論で卒論を書きたいというゼミ生の指導のために、カントリー・ガールズの MV を観ているうちに、メンバーの稲場愛香さんを急速に好きになっていったのだ。

しかし持病のために、2016 年 4 月に彼女は活動を休止してしまう。活動再開は約 1 年 4 ヶ月後の 2017 年 9 月だった。これを機に、著者は稲場愛香さんが出演する、多くの「現場」に参加するようになった。そのときの知見を記したのが 1 冊目の拙著である。

活動再開後は Juice=Juice に加入した彼女だが、その加入から約 3 年 9 ヶ月後の 2022 年 3 月中旬に卒業が発表される。この卒業発表の瞬間から卒業公演までの稲場愛香さんの活動（と著者の心情）を描出したのが 2 冊目の内容となっている。

卒業から 5 ヶ月後の同年 10 月に、稲場愛香さんは M-line club（ハロー！プロジェクトを卒業したメンバーが所属する公式ファンクラブ）に加入して、ソロアーティストとしての活動を開始して、現在にいたる。

あらためて思い返すと、稲場愛香さんを応援しはじめて、もう 10 年の歳月が経過している。あの 2 著を書いた時期のことを回想すると、あのときの自身の熱量を、いまはもう我ながら信じ

* 関西大学文学部（表象文化専修）

られない。

自分にしかできない、自分にならできるやりかたで、彼女を応援したかったからなのだが、ドイツ文化史関連の著作も同時に執筆していたし、(コロナ禍の時期も重なったが)大学の授業と準備もこなしつつ、「現場」にもそれなりに入ってという日常を送っていたからだ。

とはいえ、当時がこのうえなく充実していたことだけは実感として覚えている。くわえて、あの2著のおかげで、「現場」ではたくさんの知己を得ることができたのだった。

そして2025年10月以降は、稲場愛香さんがかつて所属していた Juice=Juice が少しずつ「バズ」っていく過程を毎日、パソコンの画面から泣きながら見守っていた。2026年3月には、このアイドルグループは日本マクドナルドの期間限定商品のウェブCMにまで起用されるようになったのだ。

個人的には、Juice=Juice をめぐる種々の状況が転換期をむかえたのは、当時14歳の最年少メンバー ^{はやしにいな} 林仁愛さんが2025年6月23日に加入してからだと勘案している。

「メガネキャラ」である彼女の加入後最初のシングル〈四の五の言わず ^{きつ} 颯と別れてあげた／盛れ！ミ・アモーレ〉(hachama) が2025年10月8日に発売されたことが、最大の契機となった。

そののち、楽曲〈盛れ！ミ・アモーレ〉がだんだんと反響を呼んで、Juice=Juice は一躍、大人気グループとなっていったからである。

林仁愛さんの加入が惹起したこのアイドルグループ内の化学反応によって、これまでの歴代および現役メンバーたちが長年の活動で蓄積してきたものすべての歯車がみごとに噛みあった結果、現在の快進撃を生みだすにいったと考えている。

本学会誌の素性にあわせて喩えると、林仁愛さんはまさしく、Juice=Juice にとってのギギ・アングルシア†なのだ。

そして本年3月末‡、4月初頭§と末**、5月中旬††に、ついに地上波の著名な音楽番組の生放送で Juice=Juice が〈盛れ！ミ・アモーレ〉を歌うのを毎回、テレビのまえで感涙にむせびながら観たのだった。

かくして、じつはアイドル以外の趣味にも多忙な著者にとっては、2026年は上半期だけでに特別な1年となっている。

稲場愛香さんのファーストソロアルバム《Selenite》発売イベントに参加し、ファーストライブツアー「EDEN」に「全通」しつつ、Juice=Juice の日々の大躍進に瞠目している一方で、『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ キルケーの魔女』を初日に鑑賞してから、4DX もふくめて合

† 映画『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ キルケーの魔女』(監督:村瀬修功、バンダイナムコフィルムワークス、2026年)に登場するヒロイン

‡ TBS系『CDTVライブ!ライブ!春の4時間スペシャル』(2026年3月30日放送)

§ テレビ朝日系『ミュージックステーション DREAM LIVE 春の3時間30分スペシャル』(2026年4月3日放送)

** フジテレビ系『STAR』(2026年4月30日放送)

†† TBS系『CDTVライブ!ライブ!』(2026年5月11日放送)

計4回、映画館に足を運んだ。

さらには、中学生のときから大好きだったTVアニメ『重戦機エルガイム』（総監督：富野由悠季、日本サンライズ、1984-85年）のメカニック・キャラクターデザイナー永野護氏が描くマンガ『ファイブスター物語』（KADOKAWA刊『Newtype』連載中）を高校生のときから読みつづけてきたのだが、長らく掲載中のエピソードのクライマックスと同時に作品40周年を迎えているというのが2026年なのだ。

したがって、老眼および加齢ゆえの体力と集中力の低下に抗うための毎日の気力を、目下のところ、拙生のなかに充溢させてくれるものはいまなお、アイドル、アニメーション、マンガといった日本のサブカルチャーコンテンツだと自負するしだいである。

